絆 きずな

市議会報告

2021 年9月定例市議会

小林たかひろ

Vol・11

長雨やコロナ禍の中での「巣ごもり生活」のせいでしょうか、今年は「夏」がなかったような気がします。気がつけば「秋」もいよいよ本番。新型コロナウイルスもワクチン接種が進むとともに、新薬も年末までには開発されるという明るいニュースも届きます。でも、安心するのはまだまだ先のような気がします。皆さまも、気を緩めることなく、「新しい日常生活」のルールをしっかり守り、ご家族そろって感染防止対策を徹底されますようお願いします。

「一般質問」を中止しました。　なぜ…？

９月定例市議会は、新型コロナウイルスまん延に伴う「非常事態宣言」や「まん延防止等重点措置」が日向市でも適用されたことに加え、複数名の市職員が感染したことで、自宅待機者数が増加。ワクチン接種対応など、市民の皆さんの安全・安心を図るための多岐に渡る業務に支障が出る恐れがあるという、予断を許さない状況となりました。

また、市長からも「一般質問について特段の配慮を…」といった要請文書も議長に提出されたことから、市民の声を届ける議員としての権能である「質問権」を返上する異例の議会となりました。

過去にも、家畜伝染病「口蹄疫」や「噛み付き猿騒動」で一般質問を取りやめた経緯もあり、議会としても議会運営委員会や全員協議会の場で慎重に審議を重ねましたが、第５派の渦中で本市の感染者数が増加傾向にある中、一般質問を行うことで、行政側が少なくとも２週間は議会に拘束されること。

さらには、その間、感染防止やワクチン接種業務、感染者が待機している宿泊所への職員派遣、時間短縮営業を余儀なくされた飲食業をはじめ、営業不振に陥っている事業者の方々への支援金支給等の計画策定業務、小中学校のまん延防止対策業務など、風雲急を告げる一連の業務が一時的にストップすること…などの背景もあり、質問を中止した…。こういう理由なのです。

でも、決してこのままで良い…ということではありません。議会サイドとしては、「全員で構成するコロナ関連の特別委員会」を設置して、市民の皆さんから寄せられている声をしっかり市長をはじめ行政側へと届け、これまでの取り組みを検証していくことにしています。市民の皆さんには、中止となったこのような経緯をご理解いただきますようお願いいたします。

さてさて、そういうことから「一般質問」は中止。従って今回号は、市長から提案された議案（補正予算）や昨年度の決算審査（委員会）の結果を皆さんにご紹介します。

●市長から提案された補正予算についての委員会審査の内容

〇総合体育館整備事業（事業費：地質調査約 380 万円、測量等約 290 万円）

基本計画の整備に先立ち、地盤状況や施設配備などについての検討を進めるため、建設場所（大王谷運動公園）の地質調査や測量を行うものです。

総務政策環境委員会での審査では、コロナ禍の中で「建設を進めることについてはどうなのかという市民の声がある。更に十分な説明をすることが重要です…」との提言を市に対して行いました。

〇コロナ対策:児童虐待防止対策支援事業（事業費：360 万円・全額国補助金）

児童の外出自粛などで、児童の見守り意識が薄れ、虐待リスクが高まっていることで、国の「強化プラン」に基づき「状況把握」や「食事の提供」など必要な支援を強化する事業です。

文教福祉委員会の審査では、事業内容や委託先、活動報告、スタッフの能力などの質問があり、「委託先は『こども食堂ひゅうが絆』と『フードバンク日向』の２カ所。四半期ごとに業務日誌を市へ提出していただく。また、事業は、相談・訪問員２名の人件費と燃料費、保険料に充てる。委託先のスタッフには事業を実施する前に十分な研修を行う予定」との市側の説明がありました。

櫨（ハゼ）の紅葉。昨年の秋にマイカメラに収めた写真です。コロナ禍でどこへも行けず、時おり、カメラ片手に近場を散歩すると、新しい発見があります。

私が所属する「産業建設水道常任委員会」での審査内容です

〇広域観光ルート推進事業（事業費：全額県補助金 60 万 1000 円）

コロナ禍で日向・東臼杵圏域の新たな誘客の手法として「サイクルツーリズム」を進め、圏域内の交流人口を促すことで地域の活性化を図ろうという取組み。同圏域で構成している広域観光推進協議会に補助金として支出し、サイクリングコースのマップやコースづくりを行っていただきます。

担当課の説明では、「距離や時間、道路の高低差なども考えながら、近隣の市町村を往来できるような短距離の観光６コースを考えている」との回答がありました。

〇交通事業者運行継続支援事業（事業費：県補助金 590 万円）

コロナ禍で経営不振が続いている市内に営業所を置く交通事業者への救済措置として、定期高速バスやタクシー業、代行運転事業所等へ支援金を支給する事業です。

委員会では、それぞれの事業者の保有台数についての質疑があり、「バス事業者は３社で 28 台。タクシー事業者は５社、105 台。代行事業者は 11 社、23 台」との回答がありました。支給金額は、バス事業者が１台当たり 10 万円。タクシー等の事業者は１台当たり２万円です。

〇県産農畜産物応援消費推進事業（事業費：県補助金 958 万 5000 円）

コロナ感染症の再拡大で農畜産業の緩和策として、宮崎牛を小中学校の学校給食へ提供して地産地消、応援消費を促そうとする事業。

委員会では、「宮崎牛」に特定した理由について、質疑があり、「コロナ禍以降の子牛の平均単価の下落や牛肉の在庫の状態を見て、全県下で宮崎牛の消費拡大に取組む」との回答がありました。

●委員会として次のとおり、市長への提言を行いました

「企業誘致推進事業」、「ふるさと応援寄付金（ふるさと納税）事業」については、日向市の重要な政策ですから、その分野に詳しい職員を配置したり、職員数を増員したりするなど、取組みの強化を図る必要があります。

私もこの２つの事業は、日向市の雇用促進や中小零細企業の活性化を促すとともに、財源の確保や人口増のまちづくりに直結する市の最重要課題ですから、最優先に取組むべき政策ではないかと考えますが、いかがでしょうか。

●市長から認定を求められた昨年度の決算審査の内容です

〇市内３高校の将来の存続について不安を感じるが…？

「高校魅力向上支援事業」について、少子化問題もあることから、その存続について不安を感じますがいかがでしょうか…との質問に「中学生の数が減っていることも事実ですが、可能な限り存続していただきたいと県へ要望しています」との説明がありました。

〇南分遣所や東郷分遣所の職員数の是正を！

「３名体制で、発生した災害等に応じて消防車と救急車を乗り換えて　運用しています。出動が重なった場合は、本署からの応援で対応しています」との答えでした。

旧幸脇小に建設された南分遣所

「一向に改善が見られません。今後は、東郷分遣所にも救急車両の配備が予定されていますが、必要な人員確保を早急に図るべきです」

議会はこのように市へ要求しました。

〇コロナワクチン接種は県下で日向市が一番遅い。理由は？

所管課からは「医師会と調整を図りながら取組んでいますが、医療従事者の方の接種が終わるまで本格的に始められませんでした。

また、ワクチンを２回分確保したうえで接種券を発行したことや、途中で供給量が激減したことも一因。現在は、土日に千人規模の接種を行っていますので、進んでいくものと考えています」との答えでした。

〇民生委員の活動：担い手不足の打開策はいかに…

市内に民生委員がいない地区が４地区ありますが、担い手不足や高齢化、複数の役職を兼務する方も多く、負担を生じています。このことから、「民生委員協力員制度」などの事業を起こして打開策を検討することが求められています➡市側への要求です。

〇放課後子ども教室と同児童クラブを連携してはどうか

２つの「教室・クラブ」の連携について、連携できない理由は…の質疑に「様々な課題があって連携は難しい」との答えでしたが、両方の教室・クラブは同じような事業で市民の皆さんにも分かりにくい。できない理由を具体的に整理して議員に示して欲しいと要求しました。

〇地籍調査事業の進み具合はどのようになっているか

「現状は全体の 38.1％しか進んでなく、県内の他市と比較すると格段に遅れています。現在のペースだと完了するまでに 50 年はかかります。

今後の取組みは、美々津から北方面（幸脇地区も含む)。東郷地域は迫野内地区が終わり、八重原地区の調査に入ります。

調査は近年成果を上げているドローンなどを駆使してレーザー測量の活用を図り、ピッチを上げていきます」との答えでした。

〇市のブランド品:食文化や囲碁文化の原料「ハマグリ」の保護増殖のための取組みは？

ハマグリを密漁から守る取組みや生育の保護・増殖、ブランド品としての文化の伝承・普及はもとより、PR の強化を図る必要があります。

今までは、碁石の原料には、メキシコ貝を使っていましたが、輸入が難しくなり、製造業者も激減しています。

打開策として、碁石製造業者間で話し合い、組合組織を作って共存共栄を図るべきです。

このことについては、私も過去に一般質問を行い、言及しましたが、一向に進む気配がありません。日向特産のハマグリ碁石が消えてしまってからでは遅いのです。執行部のタイムリーな取組みの強化が求められます。

（市役所１階市民ホールで開催中の囲碁サミット…囲碁にまつわる全国１０市町で構成する全国組織…が主催した展示会：写真）

Back Stage➡９月議会は 10 月５日に終了。私が議員となり「議会報告」も今回で 11 回目の発行となりました。いつもながら、編集を終えるとホッとします。今回からカラー号で発行することに決めました。モノクロより、1.5 倍の時間とそれなりの出費を要しますが、皆さんが、より読みやすく親しみやすい新聞づくりには、カラーでお届けするのが何よりだと実感しました。議会の動き、市の取組みが分かっていただければ幸いです。これからも皆さん方に役立つ議員を目標に前進あるのみです。koba

権現崎公園(県指定文化財:照葉樹林の森)の遊歩道を舗装整備

森林浴を兼ねた幸脇地区のシンボル「権現崎公園」のトイレ前から若山牧水の歌碑、湊柱神社へと向かう散策遊歩道の一部が舗装され、きれいになりました。幸の里まちづくり協議会の三木会長や寺町幸脇区自治会長らの市側への陳情に加え、私自身も議場の場で、過去に落葉の盗掘や遊歩道の整備について質問した経緯もあります。駐車場のトイレの洋式化、遊歩道への車両の侵入を防ぐ鎖チェーンの設置も完了。(遊歩道舗装：長さ 65m、117 万円)

残る課題は、遊歩道の延長や歌碑前のベンチ等の配備などについても、「幸の里」や「区自治会」と連携して要望を続けたいと考えています。

牧水公園の旧牧水庵がハンバーガーレストランに変身

牧水公園内にある空き店舗となっていた「旧牧水庵」は、以前から閉店して公募を行っていましたが、今年の８月に美郷町のジビエ振興会が「マウンテン・バーガーズ・クラブ」というハンバーガーレストランをこのほどオープンさせました。

シカ肉を使ったハンバーガーなどを提供する店舗。私も行ってみましたが、平日でもカップルや家族連れなどにも好評の様子でした。

皆さんもぜひ一度、ご家族で試食がてら出向かれてみてはいかがでしょうか。

きっと満足されると思います。

旧牧水庵跡に出店しているバーガー店

▼日向サンパーク施設の動きは。

旧・温泉施設の取組みについては、一次募集が行われましたが、応募者がありませんでした。「コロナ禍」の中で、密の環境を作り出す温泉施設…というリスクもあったことが要因です。いち早いコロナウイルス感染の収束が待たれるところです。

今年中には新しいワクチンや飲み薬も開発される…とのことですから、遅くとも来年、１月ごろには、再公募されるのではないかと考えています。

１億円強をかけて、新しい遊具が設置されることになっています。

おもな遊具の種類ですが、児童用ロング滑り台（約２０ｍ）やキッズアドベンチャーロープーウェイ子どもの発達レベルに応じた遊具アイテム５種（３歳未満児・障がい者用の遊具）。そのほか、ブランコ、ミニシーソー、大人も歩ける足つぼ歩道、健康遊具など、盛りだくさんの遊具が設置されます。来年３月までには完成する予定です。

眠ったままの旧温泉館

市道の維持管理は。

市道の総延長は５９１キロ。とてつもなく長い距離です。

パトロールについては、１３エリアに分けて職員２名１班体制で、主要幹線道路に関しては、週１回。その他の道路に関しては、エリアごとに適宜パトロールを実施しているとのことです。

ツギハギだらけの市道の例

市街地と市街地外とでは、人口格差もあり、隅々までのパトロールは困難だ…との回答がありました。でも、中山間部に住む私としては、どうも納得がいかない…。「投資対効果」という言葉があります。市のお金を投資しても、通行量が多くなるか…。いわゆる市のお金を注ぎ込むほどの価値があるかどうか…こういう意味の言葉です。

若い方々が親元の中山間部を離れ、生活に便利な市街地に住家を造り住む。このままだと中山間部には、住む人間が居なくなってしまいます。「投資対効果」のみの目線はなく、生活していく上で欠かせない道路整備目線も大切です。周辺部の区長さん方も市へ陳情されますが、なかなか取り合ってもらえないと嘆いています。危険道路のタイムリーな改修を要求しました。

皆さんが困っていることやご意見、ご要望、ご提案などがありましたら、いつでも気軽にお電話、メール、SNS（Facebook、Line）でご連絡ください。

（市の施設や道路、高齢者等の介護、教育問題など）

小林たかひろ事務所
▶住所：〒889-1112/日向市大字幸脇 1088 番地２
▶Tel・Fax：0982-58-0073　携帯：090-4347-2712
▶メール：kobat1125@gmail.com
▶小林たかひろ HP：kobat.mimikawa.net